

1 自己評価及び外部評価結果

(別紙)

【事業所概要 (事業所記入)】

事業所番号	2492200130		
法人名	医療法人 光焔会		
事業所名	フレンズハウス 川越		
所在地	三重県三重郡川越町高松185-1		
自己評価作成日	令和6年	12月	19日
評価結果市町提出日			

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要 (評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	令和	7年	1月 27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)】

明るく家庭的な雰囲気を大切に「ここに来て良かった」と感じていただける心豊かな介護サービスを目指しています。また日々の暮らしの中で自分らしく生活していただけるよう支援していきます。家族にも認知症の進行状況を報告し今の心身状況を理解していただき、家族ができないご協力をお願いしております。誕生日会では一人ひとりに合わせたお祝いをしております。年間の大々な行事は夏祭りクリスマス会を開催しております。お盆には地域の足上げ祭りの方々に太鼓や山車で駐車場に来ていただいたり、高松サロン会にも参加し交流も行ってあります。利用者が安心して笑顔がたくさん見られるような関わりを心がけて支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点 (評価機関記入)】

2004年の開所から「ここに来て良かったと感じていただける支援」の理念のもと20年が経過した。その間、2021年と昨年10月と2度の法人交代を経験し、戸惑いながらも、理念に添った支援を心掛けて来た。家族からは「気楽に面会でき、気付きも多く、安心である」等の感謝の声が多数あり、穏やかな生活の流れを感じることが出来る。調査当日も明るいフロアの中、利用者全員がテーブルを囲みながら談笑の様子がみられた。入浴のない日は1日中ゆったり出来る為、外出や散歩、地域の行事へ参加などが楽しみな時間となっている。コロナ禍の影響はまだあるが徐々に以前のように、イベントやボランティアの受け入れ、地域交流などに力を入れ「ここに来て良かった」と利用者や家族の声を聞きたいと思っている。

V. サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目: 11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+) です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は事業所理念を共有し「家庭的雰囲気を作る」「ここに来て良かったと感じていただける支援」を大切に地域の中でその人らしい生活が送れるよう日々支援している。	法人が代わり、再度理念について振り返る機会が出来た。チームで共有できる支援を心掛け、今まで馴染んでいた理念を柱に「ここに来て良かった」と家族の声が聞けることを目標に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年の9月まで高松サロン会に参加している。8月はつばめ駐車場に高松町練りの足上げ祭りに来てもらい利用者に祭りを楽しんでもらった。	今年は、地域住民との貴重な交流の場である「高松サロン会」の夏ごろの再開、お盆恒例の事業所駐車場での、人の背丈ほどもある大太鼓が鳴り響く「足上げ祭り」など、地域住民とふれあうビックイベントが2つも予定されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に向けての活動は行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスが「5類」となり状況的に落ち着いたので今年4月より高松公民館からフレンズハウス川越で2ヶ月に1回開催している。	定期的に2ヶ月毎に開催し、活動報告、利用者の状況、ヒヤリハット報告と対策、質疑応答などを行っている。入居間もない家族参加があり、実りある運営推進会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1回開催される川越町介護保険サービス事業者間会議に参加し状況報告をしている。問題が生じた場合は相談に乗っていただける関係作りはしている。	川越町主催で全介護事業所が集まる、2ヶ月毎の会議に参加している。内容として各事業所のアピールやイベント情報、入居者状況、BCP(事業継続計画)についてなど、多岐にわたる話し合いが出来、貴重な会議となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は職員が一人になってしまうので玄関の施錠はしている。身体拘束についてはその時々で話し合い拘束のないケアに努めている。身体拘束適正化委員会を2ヶ月に1回開催し報告をしている。	身体拘束適正化委員会を2ヶ月毎、虐待防止委員会は年3回開催している。ケアの見直しとして、年1回チェック表を使って話し合い、基本に沿った実践に繋げている。毎月の職員会議の中で、身体拘束と虐待について研修会があり、職員の感想と氏名も記載し、記録されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	4ヶ月に1回虐待防止委員会を開催している。ミーティングや勉強会の中で虐待について話し合い、職員同士注意をしい利用者様に関わっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	必要がある利用者が居られた場合は制度が利用しやすいように支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者がホームの方針や取り組み、どの様に生活しているかを分かりやすく丁寧に説明している。家族からの質問に対しても理解、納得していただけるようお話しをさせていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時に要望をお聞きし職員間で共有している。外部への苦情申し立てが出来るよう連絡先を提示している。ホームへのご意見箱を設置している。家族のご要望でフレンズハウス川越便りを発行している。今年は4回ほど発行予定をしている。	家族面会は自由であり、年4回「個別便り」として郵送し、事業所での生活の様子が分かり感謝の声もある。面会時に色々な対話をするがあまり意見は出てない。今後、家族の要望や意見を得られるようにアンケートを行う予定がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員とコミュニケーションを図り、意見や提案が出しやすい環境に努めている。	職員への「相談事」ノートを活用しているが、業務の中で色々な話が出来、言い易く、外国の職員からも相談しやすく楽しく働いているとの声もあった。職員を支える福利厚生面も充実している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員各自が向上心を持って働けるよう職場環境、条件の整備など代表者に伝えている。勤務希望に関してはできるだけ希望に添えられるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回施設内で勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内のホームの管理者同士交流はあるが、ホーム組織としての交流はしていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問の面談で困っていること、不安なことなどをお聞きし、本人の希望や不安を把握し安心してホームで生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問の面談で困っていること、不安なことなどをお聞きし、家族の希望や不安などを把握する。入居後は本人の日々の生活の様子を家族に伝え、どんなことでも話ができる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の相談時に家族や本人の不安要素をお聞きし、どのような支援が必要なのかを見極め、その対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃からコミュニケーションをとり安心して生活できる環境づくりに努めている。同じ空間を共有している仲間同士であることを意識し、上から目線で見ないようにしている。出来ることはしてもらい、出来ないことを一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には本人の日々の様子をお伝えし、現在の状態を把握していただいている。本人の状態を把握していただくことで、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室内での面会。家族と顔を合わす時間がある。高松サロン会、夏祭りに参加し、近所の人とお話しする機会も増えている。	馴染みの支援として、2ヶ月毎の理美容の訪問、懐かしい友人の訪問、高松サロン会での地域住民との会話や交流がある。家族との受診の外出も貴重な時間であり、兄弟で手紙と電話のやり取りのある利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から利用者同士の関係を観察している。利用者同士、気が合わない方もいるので必要に応じて席替えをしたり職員が間に入り会話がスムーズにいくように努めている。イベントがある時は日頃関わりを持たない人同士が楽しくお話しをされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の希望、要望があれば、それに沿えるよう支援していきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の様子、表情、会話の中で希望や思いを汲み取っている。意思疎通が出来ない方も家族に希望や思いを聞き連携して、できる限り本人の思いを大切にしている。	声を出す工夫として、ソフトタッチでの会話や、笑いを誘うような話しかけ、絵を見ながらの会話など、尊厳を重視しながら、思いの把握に努めている。情報は記録し、職員会議にて話し合い共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族より生活歴や暮らし方、生活環境などお聞きし、入居後は本人との会話から生活歴や暮らし方を把握するよう努めている。その情報を職員全体に共有するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日によって体調が異なることもあるため、心身状態を観察し状態の把握に努めている。毎朝、バイタルチェックを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思いを汲み取りながら難しい対応、支援を行わなければならないので、家族や必要に応じて医師にも相談をしている。ケア会議で職員全員で検討し、現状に即した介護計画を作成している。管理者も1階2階の会議に参加している。	施設長が計画作成担当者である。毎月の職員会議時にケア会議として記録ノートの特記事項を見ながら、個々の介護計画を見直し話し合っている。3ヶ月毎に評価し、半年毎に家族との話し合い、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の様子やケアの実践を記入している。記録や申し送りノートで職員間は情報を共有できるようにしている。申し送りの時やミーティングに気づきや改善、工夫を話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われず、その時々生まれるニーズに即したサービスを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族や利用者の希望に柔軟に関わり合えるよう努めている。高松サロン会にも参加するようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通常はかかりつけ医に往診に来てもらっている。通院が必要な場合は家族に連絡し通院していただく。必要に応じ他科の往診も対応している。適切な支援が受けられるよう支援している。	毎月2回、2ユニット全員が、法人のかかりつけ医、薬剤師、看護師の3人による訪問診療を受けている。皮膚科は2週間に1度の訪問診療、利用者の要望時に訪問の歯科医も協力的である。安全・安心に繋がる医療体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調に変化があればすぐに担当医に連絡する。担当医、看護師と連携をとり適切な医療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者や家族が安心して治療が受けられるように、家族や病院と連絡を取り合い情報を交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化していくことが予測される場合、家族と今後のことを話し合う中でホームとして出来ること出来ないことをお伝えし、本人や家族の希望に添えるよう医師とも連携をとり支援に取り組んでいる。	昨年9月18日に看取りを行った。職員は勉強会を行い、マニュアルもあり、連携も取れており、落ち着いて看取り支援をする事が出来た。AEDの訓練もしている。現在、看取り支援はないが、終末期に向けての説明を家族にできるように心掛けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時はすぐに医師に連絡、指示を仰いでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町、区に自治会と連携し避難救助の話し合いを行っている。利用者の中に寝たきり、車椅子の方もおられ不測の事態を避けるため、火災以外ではホーム待機を基本にしている。1月はホームのみで7月には消防署を呼んで通報訓練、避難訓練、消火器訓練をしている。	今月30日に地震と津波に対して2階への避難訓練を計画している。海拔0.673mとハザードマップも直ぐに見れ、準備は出来ているが基本的には2階への避難を想定している。これからはBCPのマニュアルに沿った訓練も考えている。	BCP(業務継続計画)のファイルは完成しているが、訓練は出来ていない。災害時ライフライン寸断時の対応方法などをシュミレーションから始め、適切な対応が少しづつでも出来るよう期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「不適切なケア」のチェック表を使ってアンケートで職員に自己評価をしてもらい、利用者の人格、誇りやプライドを傷つけてないかなどを話し合っている。	職員の一人ひとりの自己評価を集計後、職員会議にて、大事などところを見直し、話し合い、今後の支援に活かすようにしている。一人ひとりの尊厳や人格について、振り返る事への周知をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の気持ちに添えるよう利用者が選択しやすいように、いくつかの選択肢を示して思いが出やすいように働きかけている。現状重度化している利用者もおられ意思決定が困難な場合もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ利用者の思いを大切にしたりリビングでテレビを観たり、やりたい事をしてもらっている。散歩へ行ったりもしている。部屋にいる人には昼夜逆転に気をつけ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服が選べる方には洋服を選んで頂き、選べない方には季節にあった服、似合いそうな服を職員と一緒に選んでいる。2ヶ月に1回の理髪を行っている。職員とネイルをして楽しむこともある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に応じて、食事やおやつとの準備、食器洗いなどをしていただいている。	食事は業者から届き、湯煎を行い、ご飯と味噌汁とおやつは手作りである。利用者の役割として、メニューをボードへ記入、食器拭きやお盆拭き、料理の盛り付けなど毎日行われている。利用者の食への関心が高く、賑やかで楽しい時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎食後に確認し記録している。全量摂取を目標に一部介助や声掛けをして支援している。水分摂取量の少ない方にもその方に合わせた水分補給に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後自立している方は声を掛け、自分でうまく出来ない方は介助をして口腔ケアを行い口腔内が清潔に保たれるようにしている。必要に応じて歯科往診も対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレで排泄していただけるように排泄チェック表を用いて、排泄パターンを把握し声掛けや誘導を行っている。	2ユニットで4人の利用者が自立である。紙パンツ使用の利用者へは、自立に向けた支援として、何がどこまで出来るのかを把握し、側で見守りながら支援をしている。夜間はポータブルトイレの利用者はなく、見守り支援を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体力的なこと運動量、水分量が減少しており便秘気味になられる方が多い。廊下を歩いたり水分補給をしたりしている。それでも便が出ない方は医師と相談し下剤を服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	人員状況の問題から曜日は決まっていなかったが1ヶ月の入浴日を決めている。その日の体調、様子に考慮している。入浴拒否がある方は時間をずらしたり誘う人を変えることで気分を変えたりして入浴していただいている。	一般仕様の浴室で広くゆったりしている。利用者とお喋りが出来る楽しみの場所でもある。入浴は週2回であり、同性介助の希望もなく、スムーズな支援が出来ている。庭に実った沢山のキンカンを使った入浴を計画中である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意思で日中部屋で休息されている方もいる。天気の良い日は布団を干したり、シーツを洗ったりして気持ちよく休んでいただける環境を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の一覧はいつでも見られるようにしてある。薬の変更は申し送りノートに記入して共有を図り、副作用や変化が現れた時は医師に報告し指示を仰いでいる。服用時には本人確認をし薬が最後まで服用できたか確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を干したり、取り込んだり、畳んだりと一人ひとりの持てる力を生かして役割を感じていただけるように支援している。午後は話をしたり体操をしたり、歌を歌ったりと気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は外の風に当たったり、散歩に出たりしている。近くのドラッグストアに職員と買い物をしたり、家族との外出も少しずつ増えてきている。高松サロン会も参加している。	玄関前で日向ぼっこや、近所への散歩、近くのドラッグストアへは「カップラーメン会」をする為に一人ひとり好きな品を買い、イオンでは、クリスマスプレゼントをかうなど、大変好評でとても喜ばれた。春には公民館の桜祭りに出かける予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていないと不安になられる方は家族の要望でホームでお預かりをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいとの希望の方には必要に応じ電話を利用していただいている。手紙の投函を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い空間で過ごしていただけるよう室温や明るさ、匂いなどには気を付けている。庭になるキンカンを取りに行きジャムにしたり、廊下などに季節の飾り付けをして季節感も感じていただいている。また音楽を流す時もある。	自慢は四季折々の壁面と利用者全員が見渡せる明るく程よい広さのフロアである。当日は沢山の折り紙で今年の干支や複雑に折られた飾りが目を引いた。昭和の歌謡曲や童謡、唱歌などの音楽を流すのも喜ばれている。日中フロアで過ごす利用者が多く、長い廊下を歩くのも日課になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	話ができる方同士が、話がしやすいように席を工夫したり、その時々様子でその人にあった場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に今まで使っていた家具や日用品を持って来ていただくように話をしている。入居後は本人が必要と思う物を持って来てもらっている。	居室入り口には施設長が描いた利用者の似顔絵が貼ってあり、利用者にも家族にも好評である。入ってすぐに鏡付きの洗面台があり好みの物が置いてある。ブラインド付きの窓は大きく明るく落ち着いた居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっているので安全に生活ができるよう配慮されている。トイレや居室が分かりやすいように表示している。また自分には出来ることはできる限りしていただくようにしている。		